

## 《女川原子力発電所「品質月間」集会を開催しました》

協力会社を含む全ての企業が業務品質の一層の向上に向けて意識高揚を図るため、11月1日から30日まで発電所および構内協力企業合同による品質月間行事を展開し、11月5日には、発電所員および構内協力企業社員約1,600人の参加のもと、「品質月間」集会を開催しました。

集会では、優れた品質管理を行っている優秀会社や品質向上の意識を高める優秀標語などの表彰が行われました。最後に参加者全員で品質月間入選標語の唱和を行い、品質保証活動の一層の強化について誓いを新たにしました。

その他、品質月間行事として、ヒューマンエラー防止に関する講演会や各種教育などを行いました。



優秀標語表彰の様子



品質月間入選標語の唱和

## 《繰り返しの訓練や教育が安全につながる～女川原子力発電所原子力技術訓練センター～》

女川原子力発電所では、日々の安全維持（監視、点検など）に努めるとともに、安全向上のための各種対策を実施しております。これらの安全確保対策を有効に機能させるためには、さまざまな訓練や教育を継続的に行っていくことが大切です。

今回は、訓練や教育を行っている女川原子力発電所原子力技術訓練センターを紹介します。原子力技術訓練センターでは、発電所の運転や点検・補修の経験が豊富な所員や外部の専門家が講師となり、シミュレーターを用いた発電所の運転訓練や安全確保に関する教育などを実施しています。年間延べ約2,200人の所員が受講し、運転や点検・補修に関する技能や知識の向上に努めています。



原子力技術訓練センター外観

2号機と同じ操作盤の  
シミュレーターを使用した訓練の様子  
～さまざまな事故を想定し、いざという時に備えます～



インストラクターが、さまざまな事故を操作盤で発生させ、受講者は的確な操作・行動を反復

万が一のトラブルを意識し、運転員がさまざまな異常に対応できるよう、訓練と指導を行なっています。



技術統括部 計画管理グループ  
新田 伸也（登米市出身）

（シミュレーター訓練のインストラクターを担当）



訓練後、インストラクターによる検討会を実施



誤った作業事例を体感することが安全確保につながることを受講生に説明



電工ドラムの過熱による災害を未然に防止する体感装置を使った訓練

体感装置を使用した点検・補修教育  
～あえて誤った作業事例を体感し、日常業務への教訓とします～

若手からベテランまで幅広く学んでいただけるように教育内容を工夫しています。



技術統括部 計画管理グループ  
亀山 義弘（仙台市出身）

（点検・補修教育業務を担当）



## 《東北電力クリスマスドリームを開催しました》

11月15日に石巻市立牡鹿中学校体育館、12月6日に女川町立女川小学校体育館において「東北電力クリスマスドリーム」を開催しました。

牡鹿中学校会場では、牡鹿中学校3年生の生徒による和太鼓の演奏や、鮎川小学校・大原小学校・寄磯小学校の児童による合唱やダンスが披露されました。

また、女川小学校会場では、女川中学校および女川小学校の生徒・児童によるオリジナルミュージカルが上演され、両会場は拍手と大きな歓声に包まれました。



牡鹿会場の模様



女川会場の模様

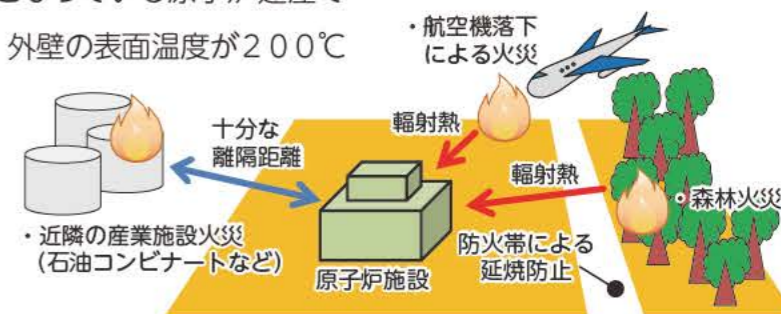
## 新規制基準適合性審査状況のお知らせ(11月末現在、審査会合65回開催)

### 《外部火災の影響評価について》

2号機の適合性審査は、東京電力柏崎刈羽原子力発電所6・7号機の集中審査(発電所日より9月号にてお知らせ済み)の実施により、プラント側の審査は11月は開催されておませんが、今回は、これまでに実施されてきた審査会合の内容について一部を紹介いたします。(平成26年10月23日、平成26年11月6日、平成27年3月19日開催分)

外部火災の審査では、森林火災や近隣の産業施設火災・爆発のほか、航空機落下による火災などについて、原子炉建屋や排気筒などの原子炉施設へ影響を及ぼさないことを説明しております。

例えば、外壁がコンクリートとなっている原子炉建屋であれば、<sup>ふくしゃねつ</sup>放射熱の影響によって、外壁の表面温度が200℃(火災時に短期的に温度が上昇したとしても、コンクリートの強度が十分維持される温度)を超えないことを確認\*しております。



\*火災の規模や原子炉施設との離隔距離から放射熱を求め、燃焼継続時間も考慮して外壁表面の温度を評価しています。また、評価にあたっては、航空機燃料が満載の状態とするなど、より厳しい条件を用いています。

審査会合の詳細は当社ホームページをご覧ください。

東北電力 女川審査会合

検索

## 《女川原子力PRセンター収穫祭を開催しました》

10月31日、女川原子力PRセンターにおいて、東日本大震災後では初めてのとなる「収穫祭2015」を開催しました。

この収穫祭は、地域のみなさまへ日頃の感謝の気持ちを込め開催するもので、近隣の子どもたちに敷地内にある「スイートガーデン」で育てた「りんご・大根・さつまいも」の収穫を体験していただきました。

当日は、天候にも恵まれ、秋のひとときをお楽しみいただきました。



スイートガーデンでのりんごの収穫体験



駐車場の特設会場にも多くのみなさまがいらっしゃいました

## 《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト\*1やモニタリングステーション\*2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.061マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

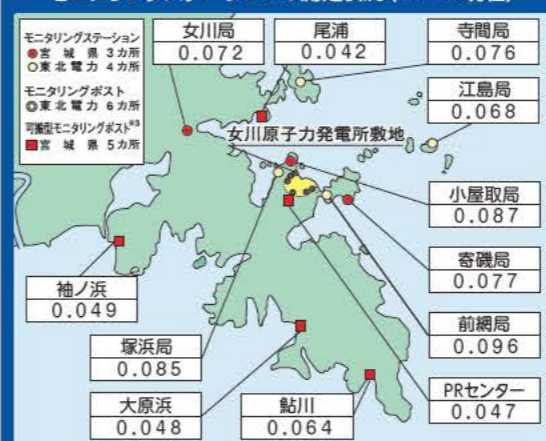
\*1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、毎年度(4月1日)の値、至近の値を掲載しています。

\*2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

\*3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

\*4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

### モニタリングステーションの測定状況(11/30現在)



### (参考)モニタリングポストの最小値と最大値

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	測定値
平成23年3月11日	0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	
平成23年3月13日	1.8~21*4
〈地震発生以降毎年度(4/1)の値と至近値〉	
平成24年4月1日	0.063~0.098
平成25年4月1日	0.055~0.076
平成26年4月1日	0.046~0.065
平成27年11月1日	0.043~0.063
平成27年11月30日	0.041~0.061

単位:マイクロシーベルト/時